

くまびょう

136号

NEWS

くまびょう
NEWS2008年
10月1日

[発行所]

国立病院機構 熊本医療センター

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501代

FAX (096) 325-2519

平成20年度第1回(通算第25回) 開放型病院連絡会開催される

平成20年度第1回開放型病院連絡会は、登録医の先生方をはじめ看護師、ソーシャルワーカー、事務の方なども含めて多数の皆様に参加して頂き、9月22日19時よりくまもと県民交流館パレアホールにて開催されました。

開始に当たり、池井院長がご参加の皆様にお礼を述べた後、新病院の建築予定、4月からの院内の新人事、熊大呼吸器内科からの医師派遣、ナースキャップの廃止(10月1日より)、敷地内全面禁煙の導入(11月1日より)などをご報告致しました。また来年7月23日、24日の両日に、熊本市民会館、国際交流会館、パレアホールを会場として第59回日本病院学会を本院が主催(会長:宮崎久義名誉院長)することより、多くの方にご参加頂きますようにご案内を致しました。続いて、開放型病院運営協議会委員長の熊本市医師会長福田稔先生よりご挨拶を頂きました。福田先生は、この開放型病院の意義を再確認され、益々開放型病院の先生方と本院の病診連携が進むことを希望される旨お話し頂きました。続く全体会議では、熊本市医師会理事の田中英一先生と、私が進行を担当し、臨床トピックスとして、まず精神科渡邊健次郎医長より、“精神科救急について”の講演がありました。熊本県での精神科救急の多くを当院が受け入れており、その大部分が、精神科に身体合併症を有する患者さんであり、その受け入れは大学病院以外では精神科病棟を有する県下唯一の総合病院である当院の使命であることを再認識して頂いたと思います。続いて、心臓血管外科の岡本実医長が“大動脈疾患に対するステントグラフト内挿術について”の演題で講演しました。一般に大動脈瘤は、直径6cm以上では予後が急速に悪くなるため、従来より人工血管による手術が行われますが、条件さえ合えば、開胸手術を行うことなく、血管よりカテーテルを挿入し、ステントグラフトを留置することにより治療することができるようになりました。侵襲が少ないこ

の治療は高齢者でも治療可能となります。県内では当院が先攻して行っており、今後益々症例の増加が期待されます。続いて、私から、新病院の建設進捗状況につき、スライドで説明しました。来年8月末には新病院の受け渡しが終わわり、9月の5連休に移転を終え、すぐに新病院での診療を開始する予定となっています。最後にフロアからのご質問を頂き、新病院の建設に伴い病院玄関前の駐車につきましては大変ご迷惑をおかけいたしておりますが、病診連携で病院訪問頂きますときは従来どおり、駐車頂きますよう確認させて頂きました。最後に、熊本市歯科医師会長古賀明先生より、歯科医師会と開放型病院との密接なかかわりについてのご挨拶を頂き、さらに口腔ケアの重要性と熊本市歯科医師会としての取り組みなどについてご紹介を頂きました。

総会終了後は、会場を鶴屋ホールに移し、懇親会を開催しました。熊本市医師会長の福田稔先生にご挨拶と乾杯の音頭をとって頂き開宴しました。各テーブルには、各科の名前を明示し、各科の医師が待機して懇談をさせて頂きました。前回に続き医師以外の方の参加者も多く、病病・病診連携についての意見交換が積極的に行われ、大変実りの多い懇親会になったと思われます。(副院長 河野 文夫)



福田委員長のご挨拶



地域医療連携に期待

医法) 田中会
田中病院
院長 田中 英一



田中病院の田中と申します。当院は新市街にあり、耳鼻咽喉科専門の単科病院です。父の後を引き継ぎ、はや20年近くが過ぎようとしています。その間、医療技術の進歩、医療制度の変革、地域周辺環境の変化、疾病の変遷、経済情勢、少子高齢化などなどあらゆる医療環境がめまぐるしく変化してきました。当院も10年前に建物を全面的に建て直し、これまでどうにかやって来ましたが、医療や社会の変化に対応しきれているかどうかいつも不安なことばかり

です。診療面ではこれまでに多くの患者様の件で熊本医療センターにお世話になりました。耳鼻咽喉科領域だけでなく、他科の先生方にいつも助けて頂いています。近年、熊本医療センターは紹介患者を断らない医療機関として地域の先生方に周知されており、当院においても熊本医療センターがすぐ近くでもあり日常の診療を行う上で大変心強く感じております。この場を借りて改めてお礼を申し上げます。

現在、熊本市医師会理事を仰せつかり、地域医療を担当している関係で熊本医療センターの開放型病院運営協議会に参加させて頂いています。開放型病院とは皆様ご存じの通り、地域で診ておられる患者様が入院治療が必要となった時に病院医師と共同で診察できるシステムであり、地域医療連携のあり方の一つです。既に1,000名以上の先生方が登録されており、宮崎前院長、池井現院長を中心に手続きの簡素化など地域の先生方により多く利用して頂けるよう努力されています。また、情報提供と情報交換、親睦を目的として年に二回連絡会を開催されています。しかし、利用状況はまだ充分とは言えません。是非一人でも多くの先生に利用して頂ければと思います。

いささか熊本医療センターの営業マン的になりましたが、患者様を断らない病院、FAX予約、救急センターを備えた病院新築など今後とも熊本医療センターに大きな期待を寄せて終わらせて頂きます。

FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

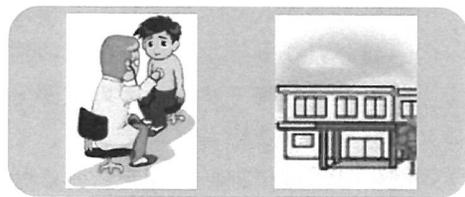
日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。平日（月曜日～金曜日）の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。

FAX紹介用紙は、電話（代表096-353-6501 内線800）またはFAX（医事096-323-7601）でご請求頂きますと、直ちにFAXにてお送り致します。また、後ほど改めてFAX紹介用紙を郵送致します。

（経営企画室長 堤内 俊一）

紹介患者様FAX時間予約のお願い



FAXにて希望の日時を申込下さい。

予約時間を返信いたします。





救命救急部医長
ICU室長

滝 賢一郎

救命救急、麻酔

日本麻酔学会・専門医・指導医
日本救急医学会員
日本集中治療医学会員
日本蘇生学会員



橋本 聡

救命救急、精神神経

日本救急医学会員
日本集中治療医学会員
日本臨床救急医学会員
日本精神科救急学会員
日本脳卒中学会員
日本蘇生学会員
日本内科学会
日本循環器学会員
日本糖尿病学会員
日本内分泌学会員
日本透析医学会員
日本精神神経学会員



北田 真己

救命救急、集中治療

日本救急医学会員
日本集中治療医学会員
日本臨床救急医学会員
日本精神科救急学会員
日本脳卒中学会員
日本蘇生学会員
日本内科学会
日本循環器学会員
日本糖尿病学会員
日本内分泌学会員
日本透析医学会員



清水千華子

救命救急、集中治療

日本救急医学会員
日本集中治療医学会員
日本臨床救急医学会員
日本精神科救急学会員
日本脳卒中学会員
日本蘇生学会員
日本内科学会
日本循環器学会員
日本糖尿病学会員
日本内分泌学会員
日本透析医学会員



救命救急部長
救命救急センター長

高橋 毅

救命救急、集中治療

日本救急医学会評議員
日本集中治療医学会評議員
日本臨床救急医学会評議員
日本精神科救急学会評議員
日本蘇生学会評議員
日本糖尿病学会評議員
日本動脈硬化学会評議員
日本医療マネジメント学会評議員
日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本循環器学会専門医
熊本大学医学部臨床教授
熊本大学大学院医学教育部客員准教授
国際医療福祉大学大学院特任教授



児玉 章子

救命救急、代謝内分

日本救急医学会員
日本集中治療医学会員
日本臨床救急医学会員
日本精神科救急学会員
日本脳卒中学会員
日本蘇生学会員
日本内科学会
日本循環器学会員
日本糖尿病学会員
日本内分泌学会員
日本透析医学会員



原田 正公

救命救急、集中治療

日本救急医学会員
日本集中治療医学会員
日本臨床救急医学会員
日本精神科救急学会員
日本脳卒中学会員
日本蘇生学会員
日本内科学会
日本循環器学会員
日本糖尿病学会員
日本内分泌学会員
日本透析医学会員
日本高気圧環境潜水医学会員
日本超音波医学会員



櫻井 聖大

救命救急、集中治療

日本救急医学会員
日本集中治療医学会員
日本臨床救急医学会員
日本精神科救急学会員
日本脳卒中学会員
日本蘇生学会員
日本内科学会
日本循環器学会員
日本糖尿病学会員
日本内分泌学会員
日本透析医学会員

診療内容と特色

国立病院機構熊本医療センター救命救急センターは、国立熊本病院救急医療センターを前身とし、1968年7月に開設されました。当センターは日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本集中治療学会集中治療専門医研修施設であり、また各消防局の基幹病院として、熊本県の救急医療の中核を担っております。

(次ページに続く)

(前ページから)

心肺機能停止、多発外傷、急性心筋梗塞、脳出血・脳梗塞、急性腹症、中毒などの重症度・緊急度の高い疾患が多く搬入されています。救急隊および地域の病・医院の要請によりドクターカーを救急現場へ派遣しています。急性心筋梗塞や脳梗塞をはじめとする緊急性の高い疾患では迅速な救急処置を心がけ、30分以内に対応できる体制をとっています。また先進医療を導入し、最新の機器・技術を駆使して最良の救急医療を提供できるよう絶えず研鑽・研究を行っています。

診療実績

当院は1995年より救急に本格的に取り組むようになり、年間100台にも満たなかった公的救急車の受け入れ台数は年々増加を示し、2007年度には7,800台を超える程になりました。また2003年に救命救急センターとなり、救命救急センター病棟への入院患者は2007年には2,100名を超えました。

救命救急センター病棟入院者 (2007年1~12月)	
疾患群	人数
CPAOA	129
重症脳血管障害	507
急性心筋梗塞および心不全	242
急性大動脈解離	50
重症呼吸不全	302
重症急性肺炎	6
全身麻酔による緊急手術を要した急性腹症	244
重篤な代謝性障害	298
多発外傷	35
多発外傷以外の全身麻酔を要した外傷	88
指肢切断	3
重症熱傷	10
急性中毒	262
計	2,176

研究実績

【厚生労働科学研究事業】

「健康危機・大規模災害に対する初動期医療体制のあり方に関する研究」

【厚生労働省循環器病研究委託事業】

「循環器急性期医療におけるモバイル・テレメディシンの実用化とその評価に関する研究」

「急性期脳梗塞の血圧動態と降圧療法に関する研究」

【国立病院機構多施設共同研究事業】

「脳卒中患者におけるメタボリックシンドロームの関与に関する研究」

【治験】

「TAK-242第Ⅲ相試験」

「E-5564第Ⅲ相試験」

「リコモジュリン市販後臨床試験」

ご紹介 (詳しくはホームページを参照下さい)

【モバイルCCU】

患者様の安静が保たれるよう、静粛で振動を最小限に制御するように、大型車両でありながらガソリンエンジンとエアサスペンションを採用しています。大動脈バルブポンピング・経皮的な心肺補助装置・人工呼吸器など複数の生命維持装置を装着した状態での搬送を行うことができます。



【モバイル・テレメディシンシステム】

救急車内の映像と12誘導心電図がリアルタイムで救命救急センターに伝送されます。救急車内を診察室へ、モバイルドクターカーを実現化しました。厚生労働省循環器病研究委託事業として、熊本市消防局との共同研究です。特に、循環器疾患や外傷など、傷病者の状態を病院到着前に把握し、適切な指示を与え、受け入れ準備ができるようになりました。



【高気圧酸素治療装置】

2~3気圧の圧力環境下で高濃度の酸素を吸入することにより血液中に酸素を溶解させることを目的としています。その結果、動脈血中の酸素分圧が1,000~1,500mmHgと大きく増やすことができます。適応疾患としては、突発性難聴、一酸化炭素中毒その他のガス中毒、重症熱傷、外傷性の脳脊髄障害などに対して主に使用されています。



【救急症例検討会】

救急医療の充実に向けて、年7回(5月、6月、8月、9月、11月、2月、3月の第4水曜日)地域医療研修センターの研修ホールで午後6時30分より1時間半の予定で救急症例検討会を開催しています。また特別講演では高名な先生方をお呼びし、救急医療に関するトピックスをご講演いただいています。



【ICLS講習会】

ICLS (Immediate Cardiac Life Support) とは、突然の心停止に出会った時にどのように対処すべきであるかという医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。特に「最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標としています。実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、蘇生のために必要な技術やチーム医療を身につけます。



第8回看護学校文化祭「花粋祭」のご案内

日時：2008年10月25日（土）10:00～15:00 場所：国立病院機構熊本医療センター附属看護学校



国立病院機構熊本医療センター附属看護学校では、来る10月25日（土）10時より15時まで第8回「花粋祭」を開催致します。花粋祭は学校の教科外活動の一環として、自主性や責任感、協調性を身につけることをねらいとしています。また、地域との交流という大切な機会でもあります。今年のテーマは「grateful ～支え合う心～」です。日頃いろいろな方に支えて頂いているおかげで今の自分があり、学生はその感謝の気持ちを花粋祭で表現しようと張り切っています。

学生は余暇時間を利用しながら、実行委員長を中心に全員で準備を進めています。日頃の学習成果である研究発表やパフォーマンスを表現するステージ、フリーマーケットや模擬店など、皆様においで頂くの楽しみにそれぞれの役割に取り組んでいるところです。

また、前日祭として、高次脳機能障害を克服しながら現在プロの歌手としての自立の道をたどっておられる一ノ瀬たけしさんとご家族をお迎えして「ゼロからのスタート」というテーマで講演とコンサートを企画致しました。

120名の手作りの学校祭ではありますが、日頃の感謝を込めて、心からのおもてなしをしようと学生一同張り切っていますので、是非おいで頂きますようご案内申し上げます。

（教育主事 安浪小夜子）

一ノ瀬たけしさんプロフィール

名前：一ノ瀬たけし（本名：一ノ瀬健）

生年月日：1977年9月22日（29歳）

デビュー曲：「僕の道しるべ」CW／「灯籠の夜」

18歳の時に突然の心臓発作で12分間の心肺停止。奇跡的に一命を取り留めたが、脳に重い障害が残る。リハビリなどの懸命な治療のお陰でいぶん回復し、現在は歌手として数々のイベントへ参加している。

～一ノ瀬たけしオフィシャルホームページより引用～



地元の商店街からの協力商品

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

専修医レポート



専修医
松井 崇浩

私は平成17年に大阪大学を卒業し広島県の国立病院機構呉医療センターで初期研修を行い、平成19年より当院に採用頂きました。熊本での研修は毎日が激動の連続で、院内各科の先生からご援助ご指導を頂きながら何とか診療が続けられており感謝の念に堪えません。患者さんから喜びを分けて頂けることもあれば患者さんの希望に応えられず医学の限界や私自身の至らなさを痛感する日々でもあります。今回は私の研修生活を紹介させて頂く機会を頂戴しましたので報告させて頂きます。

血液内科の入院診療のうち多数を占める造血器腫瘍の分野では、近年translational researchの成果として複数の新規治療薬が登場し、悪性腫瘍であっても治療が十分可能となった疾患があります。また臨床試験に基づいて治療方針が変更となった疾患もみられ、こうした面においては医学の進歩やいわゆるEBMの一端を日常診療に垣間見ることが出来ます。しかしEBMや標準治療が全ての患者さんに適応となるわけ

ではなく、その全身状態や信条などによっても治療方針が大きく左右されることを日々の診療において度々経験することがあり、その度に患者さんとの十分なやり取りが必要だと痛感します。また当院は同種造血幹細胞移植を行っている熊本県唯一の施設であり、これまでの移植実績は日本全国でも屈指です。同種移植は治療困難な造血器疾患に対する必要不可欠な根治的治療ではあるものの非常に侵襲的であり、予期できない合併症を来すことが度々あります。また治療の歴史も浅く十分なEBMが成立しにくい分野でもあります。同種移植において机上で入手できる知識では限界があり、合併症を乗り越えるためにはいわゆるexperience based medicineが重要な位置を占めることを少なからず実感します。当院は河野文夫副院長をはじめ多数の先生方に恵まれており施設全体としての経験も豊富ですので、私が困った場面で丁寧に指導頂けることはとても感謝しています。また当院は他の多くの同種移植実施施設と異なって悪性腫瘍以外の血液疾患も幅広く診療しており、私自身もこれまでTTPなどの内科的緊急疾患や重症血友病など幅広い分野を診療させて頂いたことが血液内科医として大きな経験となっています。

他科に比べ検査治療手技は少ないですが、病態に対する思考力や洞察力、患者さん方とのやり取りなど、習熟せねばならないと考える箇所は枚挙に遑がありません。今後も1日1日を大切に多くのことを学んでいきたいと思っております。引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

●平成21年度 専修医(後期臨床研修医)を募集します●

応募資格：2009年3月31日までに臨床研修を終了する見込みの者または2年間の初期臨床研修終了者

研修期間：3年間（希望により5年間）

募集人員：内科系総合専修コース・外科系総合専修コース各若干名

給 与：当院規定による

宿 舎：レジデントハウス（25㎡）平成21年3月完成予定

選考方法：書類審査、面接等

願書締切：一次 平成20年11月21日（金） 二次 平成21年1月31日（金）

応募される方は事前に下記までお問い合わせ下さい。

〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 事務部管理課給与係長 鶴見

TEL096-353-6501（代）内線621 FAX096-325-2519

詳細についてはホームページをご覧ください。

<http://www.hosp.go.jp/~knh>



研修のご案内

第85回 最新医学の知識講座 (無料)

[日本医師会生涯教育講座 5 単位認定]

日時▶平成20年10月1日(水)19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

座長 国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 野村 一俊

石岡第一病院傷の治療センター長 夏井 睦

「新しい創傷治療」

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

第226回 初期治療講座 (会員制)

[日本医師会生涯教育講座 5 単位認定]

日時▶平成20年10月4日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「小児の喘息」

座長 熊本県医師会副会長 村上 幹彦

みずもとこどもクリニック院長 水元 裕二

1. 開業医からみた小児喘息の管理

国立病院機構熊本医療センター小児科 緒方 美佳

2. 病院(入院)からみた小児喘息の管理

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

第23回 熊本がんフォーラム(無料)

日時▶平成20年10月8日(水)18:30~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

司会 桑原内科小児科医院長 桑原 哲郎

「一時間でわかる肺非小細胞癌の最新治療」

国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 柏原 光介

その他、一般演題を数題準備しています。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第86回 三木会(無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座 3 単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成20年10月16日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 教育研修棟 4 階

1. 高浸透圧非ケトン性症候群を来した2型糖尿病の1例

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科

肥後直倫、西岡裕子、児玉章子、高橋 毅、豊永哲至、東輝一朗

2. 意識障害の原因が脳腫瘍であった2型糖尿病の1例

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科

児玉章子、西岡裕子、高橋 毅、豊永哲至、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線705

第117回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座 3 単位認定]

日時▶平成20年10月20日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 柏原 光介

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例呈示「自然排石を伴った膵炎の1例」

国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科 佐藤有紀子

4. 症例「膜性腎症と半月体形成性腎炎を合併した1例」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科 榊田 光倫

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

2008年 研修日程表 10月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

10月	研修ホール	教育研修棟・会議室	その他
1日(水)	19:00~21:00 第85回 最新医学の知識講座 座長 国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 野村 一俊 「新しい創傷治療」 石岡第一病院傷の治療センター長 夏井 睦	[日本医師会生涯教育講座5単位認定]	
2日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
3日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
4日(土)	15:00~18:00 第226回 初期治療講座《会員制》 座長 熊本県医師会副会長 村上 幹彦 「小児の喘息」 1. 開業医からみた小児喘息の管理 みずもとこどもクリニック院長 水元 裕二 2. 病院(入院)からみた小児喘息の管理 国立病院機構熊本医療センター小児科 緒方 美佳	[日本医師会生涯教育講座5単位認定]	
6日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
7日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
8日(水)	18:30~20:30 第23回 熊本がんフォーラム 「一時間でわかる肺非小細胞癌の最新治療」 司会 桑原内科小児科医局長 桑原 哲郎 講師 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 柏原 光介		
9日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
10日(金)		17:30~21:00 熊本地区核医学技術懇話会(棟4階)	8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
11日(土)	10:00~12:00 第1回 熊本EBMセミナー 14:00~16:00 第209回 滅菌消毒法講座《会員制》 「手術器械の点検の必要性」 熊本大学医学部附属病院ME機器センター 山田 佳央		
14日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
15日(水)	13:00~17:00 糖尿病教室		12~13 糖尿病教室 研食
16日(木)	19:30~21:30 第50回 有病者歯科医療講演会 座長 前熊本市歯科医師会長 関 剛一 「禁煙外来について」 NTT西日本九州病院循環器科部長 藤井 裕己	19:00~20:45 第86回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [日本臨床病態看護士認定更新のための研修単位<2時>0.5単位認定]	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
17日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
18日(土)	15:00~18:00 第47回 シンポジウム 座長 熊本県医師会副会長 地後井泰弘 「医療の将来-医療の地域格差-」 1. 地域における現状と対策 長崎県福祉保健部参事監 向原 茂明 2. 卒後教育指導の立場から 熊本大学医学部附属病院副院長/総合臨床研修センター長 興祐 博次 3. 医師会の立場から 熊本県医師会理事 田代 祐基	[日本医師会生涯教育講座5単位認定]	10~12 楽しく学ぶ基礎看護技術講座 学校 (※9月6日変更分)
20日(月)	19:00~20:30 第117回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
21日(火)	18:00~19:30 第45回くすりの勉強会(公開)	18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
22日(水)	19:00~20:30 第92回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「注目されている化学療法中の劇症肝炎」		
23日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(棟4階)	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
24日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
25日(土)	10:00~15:40 第1回 ナースのための癌性疼痛緩和セミナー《会費制》 〈講演〉 1. 痛みのメカニズムと癌の痛み 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 2. 痛みのアセスメント 国立病院機構熊本医療センター麻酔科 宮崎 直樹 3. 緩和療法の実際 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長 上妻 精二 4. オピオイドが効きにくい時の対応 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・ICU室長 瀧 賢一郎		
27日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
28日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(会) 19:00~21:00 小児科火曜会(棟4階)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
29日(水)	19:30~21:00 口腔ケア研修会		
30日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
31日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C

(会) 会議室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 心リハ 心大血管リハビリテーションセンター 学校 看護学校 研食 研修棟食堂
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)